

(2) 東北



東北地域では、景気は持ち直しの動きが緩やかになっている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直しているものの、一服感がみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

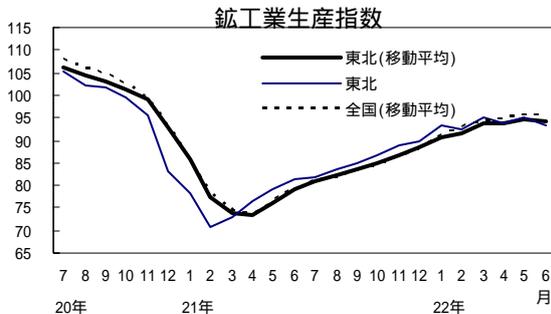
前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年5月)	今回(平成22年8月)
景況判断	持ち直しの動き	持ち直しの動きが <u>緩やか</u> になっている
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直しているものの、 <u>一服感がみられる</u>
住宅建設	大幅に減少	減少

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直しているものの、一服感がみられる。

電子部品・デバイス、モス型半導体集積回路などについて生産が低調だったことから、減少している。食料品・たばこは、冷凍水産食品などで、減少している。一般機械は、半導体製造装置及び超硬工具などで、輸出が好調であり、増加している。情報通信機械は、ノート型パソコンなどについて生産が低調だったことから、減少している。化学は、医薬品などの生産が増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。

2. 全国及び東北の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

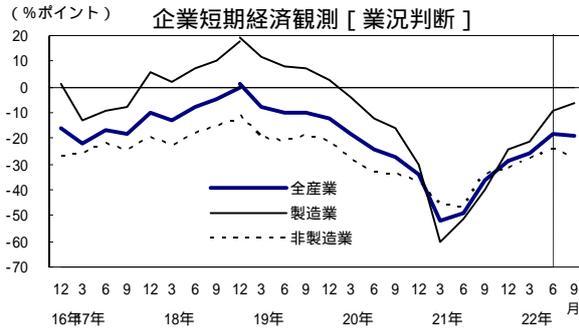
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
電子部品・デバイス	17.9	0.1	1.6	1.7	12.6
食料品・たばこ	11.8	1.3	1.2	4.6	23.3
一般機械	10.1	26.9	7.4	2.6	1.9
情報通信機械	9.6	13.9	5.2	6.4	18.0
化学	7.0	1.1	3.1	2.9	2.7
鉱工業	100.0	5.9	0.4	0.5	2.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

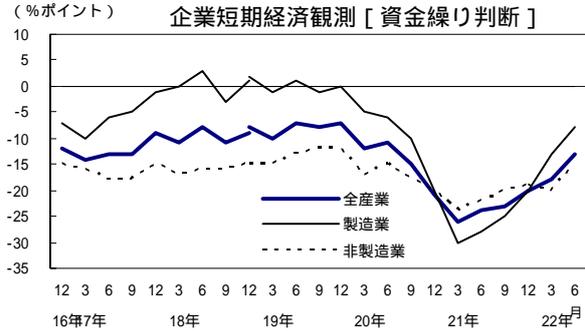
2. 4~6月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

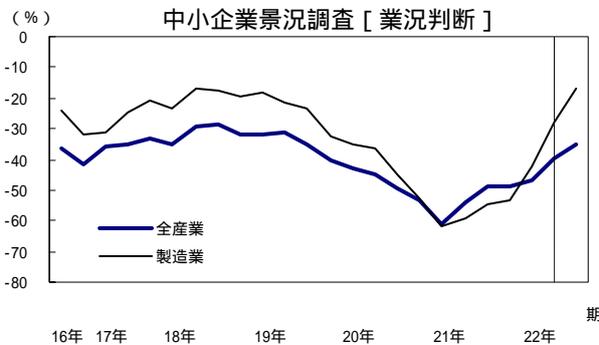
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

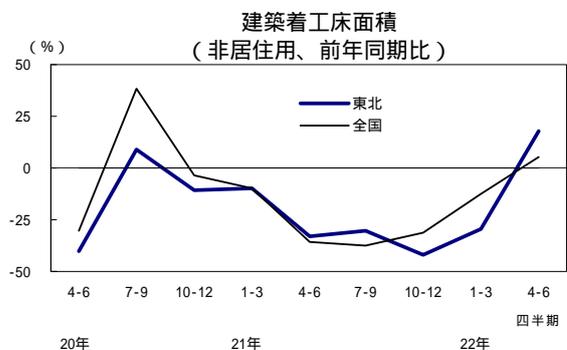
「取引関係の長い顧客でも入札案件が増えてきており、更に値下げを要請されるなど対応が厳しくなっている(通信業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 22年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	25.0 (1.2)	12.8 (7.3)
製造業	29.7 (0.2)	7.1 (9.3)
非製造業	16.4 (3.5)	21.8 (3.8)

(備考) ()は前回(3月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

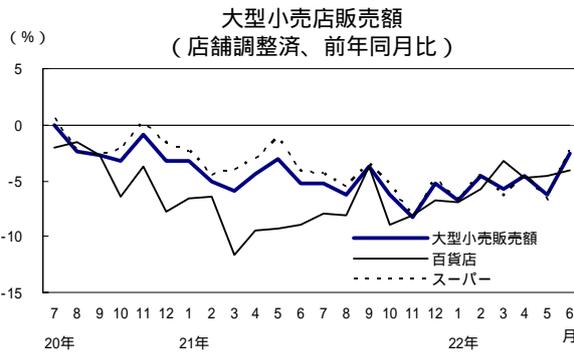
(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

大型小売店販売額

百貨店は、4月は、衣料品が春・初夏衣料全般にふるわず、前年を下回った。5月は、紳士・婦人のジャケット等に動きがみられ、前年比の減少幅が縮小した。6月は、生鮮食品を中心に飲食料品に動きがみられ、催事の好調もあり、前年比の減少幅が縮小した。なお、日本百貨店協会によると、東北地区の7月の売上は前年同月比で3.5%減となっている。スーパーは、4月、5月は、飲食料品が野菜の相場高等から前年を下回ったものの、6月は、衣料品の肌着等が好調だったことから、前年比の減少幅が縮小した。

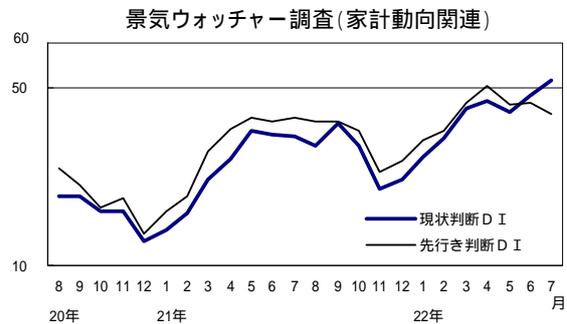
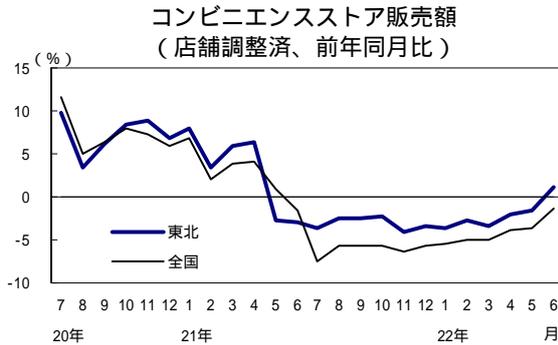
景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「子ども手当やボーナス支給に期待していたが、大きな動きはない。一方で、短い梅雨に加え猛暑の影響で、婦人衣料や飲料関連は上向きである(商店街)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	22年4-6月
大型小売店	5.0	6.5	5.8	4.5
百貨店	6.7	7.8	5.3	4.5
スーパー	4.5	6.2	5.9	4.5
乗用車	6.1	18.5	21.5	23.0
景気ウォッチャー	39.3	31.3	39.4	46.5

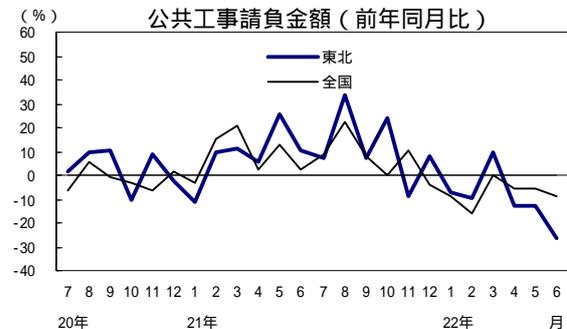
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。
 2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。
 3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は減少している。

持家、貸家が前年を下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

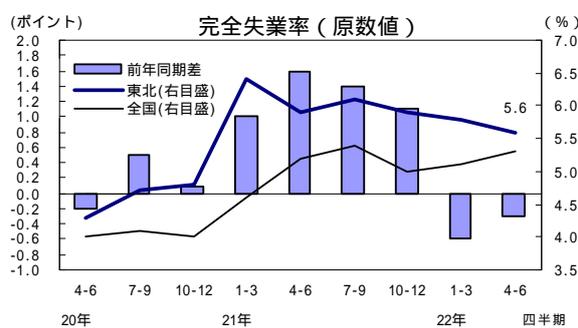
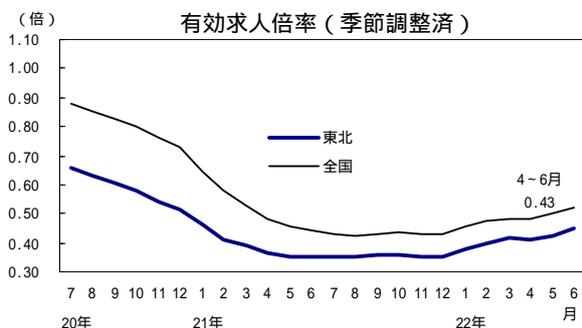


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(7月)[雇用関連(現状)]

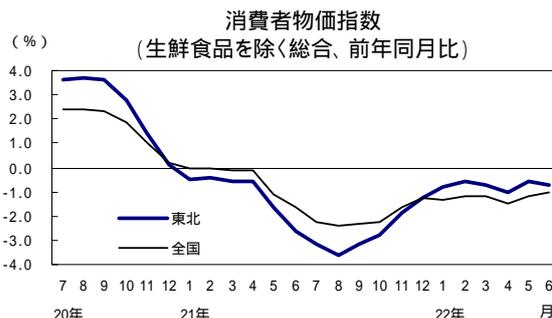
「新規求職者数は前年比で増減を繰り返しており、有効求人倍率は依然低迷が続いている(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	4-6月	22年7月
倒産件数	202	202	184	180	71
(前年比)	29.9	22.6	23.0	22.1	15.5
負債総額	288	448	414	398	290
(前年比)	73.6	38.6	43.9	48.7	97.3



景気ウォッチャー調査(7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・国内、海外共に団体旅行の受注が増えている。個人旅行では海外が順調な反面、国内が伸びず低調である。家族旅行が最も動く夏休みに入り、間際の受注でどれだけ回復するか、その点だけが不安材料となっている(旅行代理店)

<先行き>

・エコカー購入補助金と減税による買換え促進により、車検や修理等の激減が3年続くことが予想され、自動車整備や補修用自動車部品の業界内での大幅な淘汰が予想される(自動車備品販売店)

